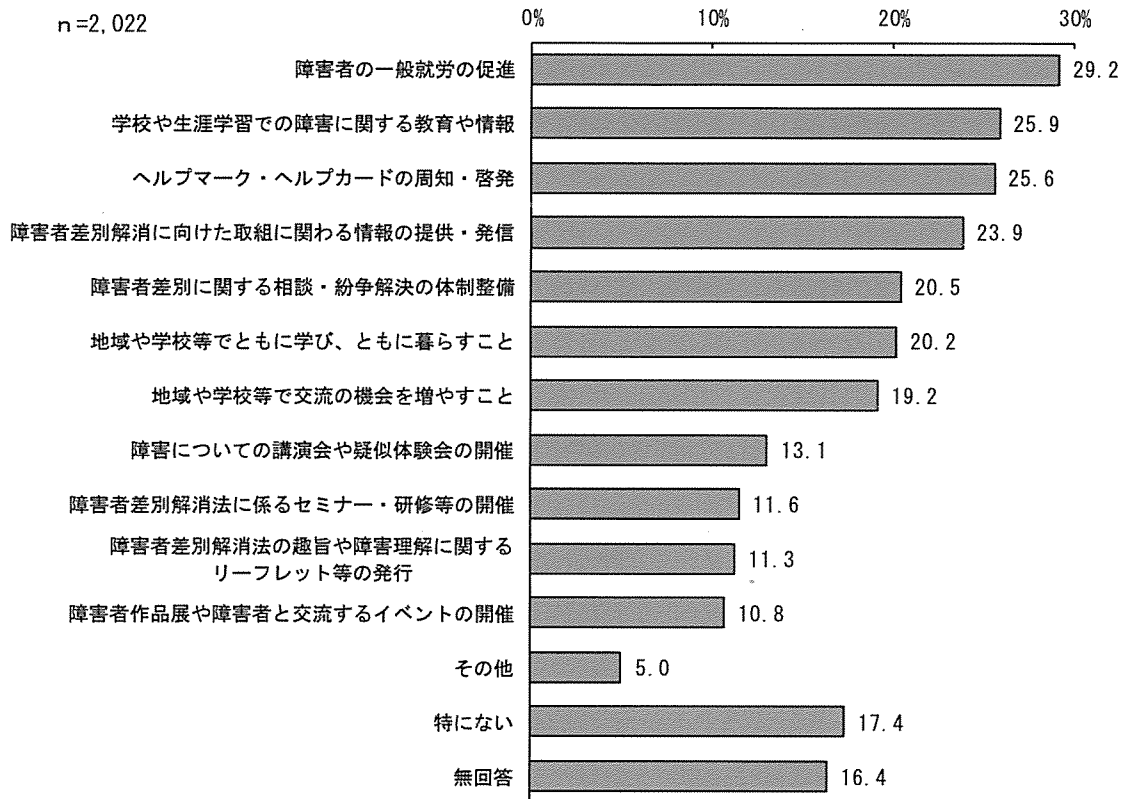


7 差別解消について

(1) 差別解消に必要なこと

問 38 障害者の差別解消を進めていくために必要なことはなんだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)



障害者の差別解消を進めていくために必要なことは、「障害者の一般就労の促進」が29.2%と約3割で最も高く、次いで「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が25.9%、「ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発」が25.6%と2割半ばで続いています。

一方、「特にない」は17.4%となっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備	障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信	障害者差別解消に係るセミナー・研修等の開催	障害者差別解消法の趣旨や障害理解に関するリーフレット等の発行	障害者作品展や障害者と交流するイベントの開催	地域や学校等で交流の機会を増やすこと	地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと
全体	2022	20.5	23.9	11.6	11.3	10.8	19.2	20.2
肢体不自由	338	17.2	19.5	7.1	6.5	8.0	15.1	17.8
音声・言語・そしゃく機能障害	87	23.0	24.1	11.5	8.0	13.8	23.0	24.1
視覚障害	145	19.3	29.0	12.4	17.9	13.1	23.4	20.7
聴覚・平衡機能障害	158	20.3	17.7	11.4	11.4	10.8	16.5	16.5
内部障害	334	15.6	21.9	5.4	6.3	7.2	13.5	14.4
知的障害	235	24.3	26.8	16.2	15.3	23.0	30.6	33.2
発達障害	150	36.7	38.0	22.0	23.3	21.3	27.3	30.0
精神障害	425	26.6	28.5	16.7	15.5	11.1	15.8	15.8
高次脳機能障害	31	12.9	25.8	12.9	12.9	12.9	22.6	16.1
難病(特定疾病)	606	18.0	23.4	9.9	9.4	8.3	22.9	23.8
その他	24	12.5	16.7	8.3	16.7	12.5	20.8	12.5

(単位:%)	n	学校や生涯学習での障害に関する教育や情報	障害についての講演会や疑似体験会の開催	障害者の一般就労の促進	ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発	その他	特になし	無回答
全体	2022	25.9	13.1	29.2	25.6	5.0	17.4	16.4
肢体不自由	338	21.9	10.1	20.4	21.3	3.6	18.3	22.5
音声・言語・そしゃく機能障害	87	20.7	8.0	21.8	24.1	3.4	19.5	24.1
視覚障害	145	29.7	19.3	24.1	22.8	4.8	17.9	20.0
聴覚・平衡機能障害	158	19.6	17.1	24.7	20.3	3.2	22.8	23.4
内部障害	334	18.9	9.3	20.1	24.9	3.0	21.3	22.8
知的障害	235	29.4	13.6	29.8	29.4	4.7	13.6	11.9
発達障害	150	36.0	19.3	46.0	35.3	8.0	7.3	7.3
精神障害	425	24.9	15.5	40.0	27.3	8.9	16.0	9.4
高次脳機能障害	31	19.4	16.1	22.6	25.8	6.5	22.6	22.6
難病(特定疾病)	606	32.5	11.9	30.2	28.7	3.6	16.5	14.4
その他	24	20.8	8.3	8.3	25.0	16.7	8.3	33.3

障害別にみると、“音声・言語・そしゃく機能障害”と“高次脳機能障害”では、「障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信」が最も高くなっています。

“音声・言語・そしゃく機能障害”と“知的障害”では、「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」が最も高くなっています。また“発達障害”でも3割と高くなっています。

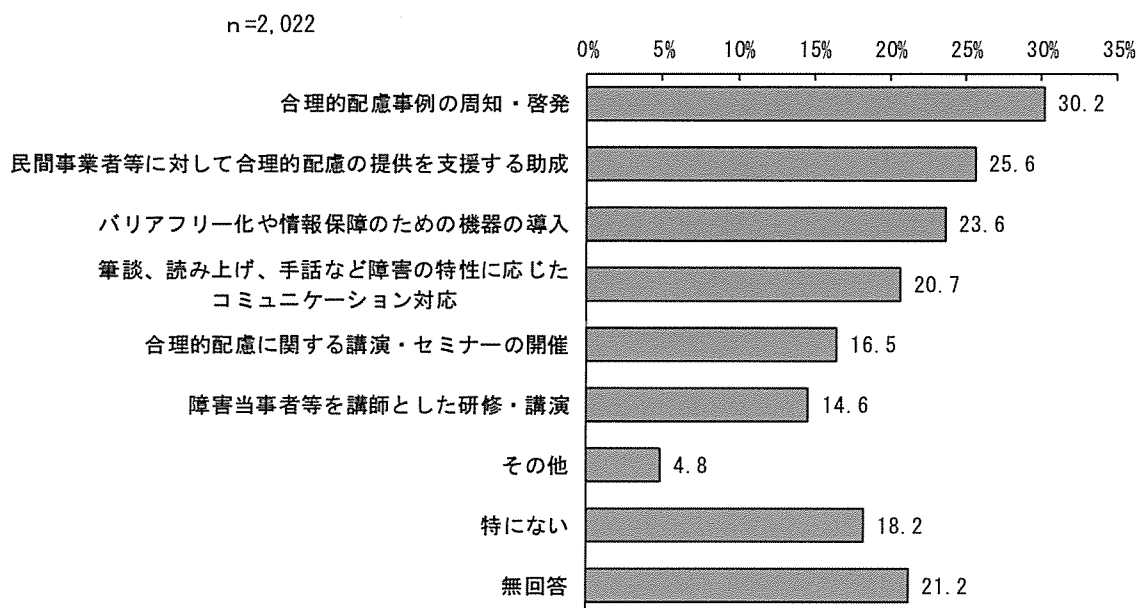
“肢体不自由”、“視覚障害”、“難病(特定疾病)”では、「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が最も高くなっています。

“内部障害”、“発達障害”、“精神障害”では、「障害者の一般就労の促進」が最も高く、特に“発達障害”と“精神障害”では4割を超えて他の障害よりも高くなっています。

「ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発」はいずれの障害でも2割を超えて高く、特に“発達障害”では35.3%と3割半ばを超えています。

(2) 合理的配慮に必要なこと

問 39 社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮を進めていくために必要なことはなんだと思われませんか。(あてはまるものすべてに○)



合理的配慮を進めていくために必要なことは、「合理的配慮事例の周知・啓発」が30.2%と3割で最も高く、次いで「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」が25.6%、「バリアフリー化や情報保障のための機器の導入」が23.6%と続いています。

一方、「特にない」は18.2%となっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	合理的配慮に関する講演・セミナーの開催	合理的配慮事例の周知・啓発	筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応	バリアフリー化や情報保障のための機器の導入	障害当事者等を講師とした研修・講演
全体	2022	16.5	30.2	20.7	23.6	14.6
障害別						
肢体不自由	338	12.7	25.1	16.6	32.0	9.5
音声・言語・そしゃく機能障害	87	16.1	27.6	19.5	26.4	9.2
視覚障害	145	13.1	30.3	31.7	33.8	17.9
聴覚・平衡機能障害	158	16.5	20.3	33.5	29.7	14.6
内部障害	334	11.7	26.6	14.7	23.4	8.7
知的障害	235	22.1	38.7	23.4	19.6	17.9
発達障害	150	30.0	47.3	30.0	26.0	25.3
精神障害	425	21.4	34.6	17.9	16.0	21.2
高次脳機能障害	31	22.6	29.0	6.5	25.8	12.9
難病(特定疾病)	606	14.9	32.5	22.3	27.6	13.0
その他	24	20.8	20.8	20.8	20.8	20.8

(単位:%)	n	民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成	その他	特にない	無回答
全体	2022	25.6	4.8	18.2	21.2
障害別					
肢体不自由	338	20.1	4.1	15.7	25.7
音声・言語・そしゃく機能障害	87	17.2	0.0	14.9	26.4
視覚障害	145	24.8	1.4	17.9	24.1
聴覚・平衡機能障害	158	19.0	0.6	15.8	28.5
内部障害	334	21.0	3.0	21.6	27.5
知的障害	235	31.9	4.7	18.3	18.7
発達障害	150	48.0	8.7	12.0	9.3
精神障害	425	28.9	8.0	20.2	15.8
高次脳機能障害	31	22.6	9.7	16.1	29.0
難病(特定疾病)	606	28.2	4.3	17.3	18.2
その他	24	16.7	12.5	16.7	33.3

障害別にみると、「聴覚・平衡機能障害」では、「筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応」が33.5%と最も高く、「視覚障害」と「発達障害」でも3割を超えて他の障害よりも高くなっています。

「肢体不自由」と「視覚障害」では、「バリアフリー化や情報保障のための機器の導入」が3割を超えて最も高くなっています。

「発達障害」では「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」が48.0%と最も高くなっています。

それ以外の障害では「合理的配慮事例の周知・啓発」が最も高くなっています。